

## 第 10 回スペクトル管理 SWG 議事録

1. 日時:平成 16 年 4 月 15 日(木)10:00 - 20:30
2. 場所:TTC 事務局 4F DE 会議室
3. 出欠者:
  - ・出席会員数/全会員数 27/33 (出席数には議長委任状7を含む)
  - ・出席委員数/全委員数 42/61 (出席数には議長委任状8を含む)以上により会議成立
  - ・議長:池田佳和(SWG リーダ)、副議長:林明、松本一也、吉井伸一郎(サブリーダ)
4. 会議資料:寄書リスト
5. 議事要約
  - 5-1. 議事次第について承認
  - 5-2. 前回議事録を確認 <SMS-10-01>
  - 5-3. 議事録担当 TOKAI
  - 5-4. 議事録について

議事録に記載する内容は、次の通りとする

    - ・合意した事項
    - ・次回以降に向けての課題
    - ・議長判断により記載することを決めた項目
    - ・会員が議事録への記載を求めた場合は、議長の判断により出席者の承認を仰ぎ、承認された場合のみ記載する
  - 5-5. 課題表の確認 <SMS-10-03>
  - 5-6. 遅延寄書の取り扱い
    - ・3 件の期限遅れの遅延寄書があった。これらは今回審議対象としない。提出期限厳守を再々再確認し
  - 5-7. クワッドスペクトル方式の課題
    - 5-7-1. スーパー上リクワッド SU-Q2 の適合性確認について <SMS-10-04> <SMS-10-05>
      - ・クロスチェック行う
      - ・1.1MHz 以上の周波数使用に関する議論の中で、VDSL のバンドプランは ITU-T 勧告 G.993.1 で 2001 年 11 月に制定、および PSD については、4 月の ITU-T SG15 でコンセント予定であることを確認した
    - 5-7-2. JJ100.01 のモデルと製品実装の違いについて <SMS-10-06>
  - 5-8. JJ100.01 第 3 版に向けての課題
    - 5-8-1. 保護判定基準マスクの具体案<SMS-10-07 >< SMS-10-07(MASK)>
    - 5-8-2. ISDN 収容条件< SMS-10-08><SMS-01-08(別紙) >
    - 5-8-3. 第 3 版への変更点について<SMS-10-09 >
    - 5-8-4. JJ-100.01 第 3 版に向けて<SMS-10-10 >
    - 5-8-5. マルチゲージの評価<SMS-10-12> <SMS-10-17> <SMS-10-18> <SMS-10-19> <SMS-10-21>

5-8-6. モデル×4と×5の比較<SMS-10-13><SMS-10-17><SMS-10-19>

5-8-7. OLの干渉評価<SMS-10-14><SMS-10-17><SMS-10-19>

5-8-8. 第3版改定に向けた課題についての意見集約表関連 <SMS-10-22><SMS-10-23>  
<SMS-10-24><SMS-10-20><SMS-10-25><議長によるADSLバンドプラン提案>

(1)基本方針

サービススペックに関する事項を課題とするか 課題としない

上り拡張方式のほかに、長延化方式、1.1MHzを超える周波数を使う方式、リモートターミナルでのDSL方式を扱うか、検討する順番

・上り拡張方式の検討 議長よりADSLのバンドプランに関する提案(SWG会合寄書FTPにアップ)もあったが合意できず、継続検討とする

・長延化方式 課題とする

・1.1MHzを超える周波数を使う方式の検討 課題とする

・リモートターミナルDSLの検討 検討対象ではあるが優先順位は低い

保護システム(クラス分け)の見直し 課題としない

総量規制、収容制限のみに限定すべき等の考え方

・総量規制の導入検討 保護判定基準の見直しの課題とともに検討する

・線路長制限を廃止し、収容制限のみに限定すべき 課題としない

(2)保護判定基準の見直し

保護判定基準は一定のサービスレベルを基に規定すべき 継続検討とする

ISDNを適合性確認の干渉源から排除したい 継続検討とする

・干渉源から外すことを提案している会員は、次回会合で干渉源から外す場合の保護判定基準等を具体的に提案する

距離3.5km(0.4mmPE絶縁)で4Mbps(下り)、400Kbps(上り)を確保したい 課題としない

緩和値(マージン)の設定 課題としないが、保護判定基準の見直し等で検討する

保護マスクの導入の是非 保護判定基準の見直しの課題とともに検討する

EUがFDMの下り帯域に及ぼす影響を、少なくともOLがFDMの上り帯域に及ぼす影響と同程度にまで規制すべき 保護判定基準の見直しの課題とともに検討する

第2版通りの運用をすべき、見直しする合理的な理由がない。 課題とする

(3)線路モデル、干渉源、計算方法の変更

線路長(損失)の定義および各式の整合性 「線路長」について「換算線路長」という表記に変更する  
干渉源の数 長延化の課題とともに検討する

2.7km超線路長でのISDNの扱い ISDNを適合性確認の干渉源から外すか否かの課題とともに検討する

長延化方式用モデルおよび適用距離 長延化の課題とともに検討する

漏話の周波数特性が正しくない 課題としない

キャリアビット数[8、15、その他] 継続検討とする

マルチゲージモデルを導入すべき 継続検討とする

漏話条件に1回線漏話を追加すべき 長延化の課題とともに検討する

第2版通りのモデルで十分、モデル変更する合理的な理由がない。 他の課題とともに検討する

5-8-9. 上り拡張方式の取り扱い<\*SMS-10-26><\*SMS-10-27 ><\*SMS-10-28 >

・スペクトル適合性確認結果報告書の1項にある上り拡張システムに関する記述について、次のとおり変更する。

「第2版制定後にスペクトル適合性が確認されたシステム(2004年4月15日現在でNTT東西の接続約款で認可されているものを除く)に関して、第3版に向けた新たな利用制限を設けるか否かについてTTC DSL 専門委員会スペクトル管理 SWG で協議中である。」

## 6. 今後の予定

次回会合は5月14日(金) 10:00~ TTC 事務局 4F DE 会議室

寄書の提出は5月7日(金)24時を期限とする。

寄書に対する対案提出は5月11日(火)午前10時を期限とする。

以上